

放送日： 平成 20 年 5 月 18 日  
タイトル： 手足のしびれ、痛み、麻痺  
担当者： 医師 渡辺 一良

こんにちは。公立甲賀病院脳神経外科の渡辺一良です。  
本日は、手足のしびれ・痛み・マヒということについてお話したいと思います。

神経には、大きく分けて2つの系統があり、ひとつは運動を伝える運動神経、もうひとつは感覚を伝える感覚神経というものです。そしてこの2つは脳から始まり、背骨の中を通る脊髄に連なり、そこからさらに手足へと伝わるというつくりになっていますね。これらは一応、脳ー脊髄ーそして末梢神経というように名前をつけて区別してはいるものの、区切りのないひとつつながりです。  
以上が構造、つくりのお話でした。

次にその働きと障害されたときの症状ですが、運動を伝える神経（運動神経）がそのどこかで障害されると、症状としては手足の動きが悪いー手足のマヒという形で現れてきます。

もうひとつの感覚神経が障害された場合には、手足の感覚に異常が出てくる。つまりしびれや痛みという症状を出すということです。  
ここで「しびれ」ということばについてですが、長い間正座していると足がしびれますよね。あの様な感覚のことを「しびれ」と呼んでいます。  
患者さんの中には、先に述べました動きが悪い状態も「しびれた」と表現する方があります。こちらはそれを聞き分けるようにしていますが、上手に医者にかかるという点からみると、体のどこがどんな感じ（ジンジンと何かが張りついている様な熱い・冷たいが分かりにくい）かを表現してもらえると助かります。何しろ感覚は当の本人にしか分かりませんからね。

話をもとに戻しましょう。  
このような神経の走り方を基本に据えて、体の異常を診ていこうとする分野が我々脳神経外科と神経内科ということになります。  
ですから、我々は自分達のことを決して脳外科とは呼びません。脳だけ取り出して考えていては、正しい診断に行きつけないからです。  
例えば、つま先や足の裏のしびれが出て足の運びが悪いためにうまく歩けない方がいたとしましょう。こんな方を前にして神経の専門家は、神経の走り方、構造に基づいてどこに病変がありそうかを考えながら話を聞いています。これを問診と言います。  
ついで身体診察をして医師の目で確認します。ここまでで8ー9割は済んだも同じなんですね。  
最後にそれまでの所見を裏付けるためにCT・MRなどの検査を行うという訳です。  
ですから、患者さんが血圧が高かったから脳溢血ではないかとか、脚にしびれたら腰のせいだとか自己判断することは大変危険なことです。

以上まとめますと、  
①しびれや痛み・マヒという症状は神経のどこかに異常が起こった時に出る症状だ。  
②脳と神経とはひとつながりのもので、区切りがある訳ではないので、遠く離れた手先・足先に症状が出ることもあるということ。  
従って、  
③患者さんとしては、自己判断することなく、早めに神経の専門家にみてもらうこと。その際、症状をうまく伝えることが大切であること。

などをお話しました。